

論文審査の結果の要旨

報告番号	博（経）甲第 4 号	氏 名	永田 吉朗
論文審査委員	主査	杉原 敏夫	
	副査	丸山 幸宏	
	副査	津留崎和義	
<p>題名：財務分析の限界とネットワーク D E A による改善に関する一考察</p> <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>本論文は、伝統的財務分析の限界とされていた企業活動の統一的な観点から見た財務目標の設定及びベンチマーキングのための企業の合理的な選定という課題に対して、ネットワーク D E A を基本とする戦略的マネジメント・システムに直結する新たな財務分析手法を提案・構築したものである。本手法により、従来企業の財務体質の評価を中心としてきた財務分析が企業経営のバランスト・スコアカードにおける財務領域の実質的な分析基盤を形成し、戦略マネジメント・システムの構築に向けての有力な一翼となりうる可能性を示したものである。</p> <p>本論文は次に示す 5 つの章により構成されている。</p> <p>第 1 章 序論</p> <p>第 2 章 現代企業の戦略マネジメント・システムにおける財務分析の機能と限界</p> <p>第 3 章 ネットワーク D E A による財務分析手法の構築</p> <p>第 4 章 伝統的財務分析とネットワーク D E A 財務分析の実証比較</p> <p>第 5 章 本論文の総括と今後の課題</p> <p>第 1 章では、本研究の目的、研究の方法、先行研究の問題点と解決の指針、および論文構成が示されている。その中で、個別の財務分析比率の目標値は提示可能であるが、それらを統合した全体最適な目標値を金額で算出できないこと、またベンチマーキングにおける比較対象とすべき企業の選定が困難なことなどの伝統的財務分析の限界を示し、現代企業における戦略策定およびそれを裏打ちする予算編成における新たな意思決定支援ツールの必要性及びそのことに対する提案する新手法による実現可能性を指摘している。</p> <p>第 2 章では、企業のマネジメント・コントロールシステムの進化に伴い財務分析の果たすべき役割は変化に対して、ここで示す分析の対応可能性について考察している。本手法</p>			

は、現代企業の戦略マネジメント・システムの中心的役割を果たしているバランスト・スコアカードにおいて要求される財務分析の役割から、重要指標であるROA並びにCFROA（キャッシュフロー対ROA比率）の尺度のもとに優良な比較対象を合理的に選定し、改善目標を提示する事が可能であり、伝統的財務分析の限界を克服できることを示した。

第3章では、第2章で明らかになった財務分析手法を実現するものとしてネットワークDEA（NDEA）財務分析モデルを提案・構築している。まず、ROA分析およびCFROA分析を統合的に行うための一連の財務項目構造を構成し、ネットワーク状に配列された財務諸項目を統合的に分析できるDEAモデル（NDEA財務分析モデル）を構築している。

第4章では、NDEA財務分析モデルの適用検証事例として上場建設事業者19社の3年分のデータを用いてクロス・セクション分析及び時系列分析の双方において伝統的財務分析と対比し、伝統的財務分析の限界を明らかにし、構築したNDEA財務分析モデルが合理的に対象企業を選定し目標値を算定できること、さらにROA分析、CFROA分析を全体統合的に行う事が可能であることを示している。

第5章では、本研究の要約および今後の研究課題を展望している。その中で、本研究で構築したNDEA財務分析モデルは、改善によりさらに財務分析における未解決問題の解決可能性、例えば時系列分析における効率的フロンティアのシフト、負のデータを含む場合の分析、さらにはプロセスに準拠した伝統的財務分析と統合モデル化などを示唆している。

本論文が目指すものは、伝統的財務分析の限界を乗り越え、従来個別に分析されていた財務項目（資金運用、営業損益、営業キャッシュ・フローなどに関する諸項目）をネットワーク構造の要素として捉え、NDEAモデルを用いて、その諸項目の総合的な改善案の提示可能性を示すことである。そこで構築されたNDEA財務分析モデルは、財務分析手法として独創性の高いものであり、またNDEAモデルの適用分野として斬新なものである。そのモデルは、局所的効率化の目標値の提案でなく事業全体の効率化の目標値が提案できる、すなわち総合的な財務分析ができるという特性をもち、バランスト・スコアカードの一翼を担い、現代企業の戦略マネジメント・システムにおける貢献が期待される。なお、数度に亘る学会発表において、本手法は今後の先駆的な管理工学的財務分析として高い評価を得ている。

本論文では、上場建設事業者を用いて実証分析がなされているが、同モデルは、それ以外の幅広い分野の産業への適用が可能であり、現代企業における戦略策定および予算編成における新たな意思決定支援ツールとなることが期待される。また、順位相関分析、回帰分析などの統計手法による伝統的財務分析における結果との整合性やROAに対するNDEAモデル入力財務項目の有意性の検定などもなされており、NDEA適用において留意すべきバックグラウンドの各種条件についても検証がなされている。

以上のように、本研究は新規性が高く、経営意思決定及び財務分析の高度化研究に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（経営学）の学位に値するものと判断した。